

## 肢体不自由特別支援学校における防災対策・防災学習

団体・学校の特徴	埼玉県西部にある肢体不自由の子どもたちの通う特別支援学校である。				
所在地(市町村名)	日高市	児童生徒数	135名	活動期間	9年3か月
活動内容	PTAや地域、行政と連携した『防災体験プログラム』を毎年夏休みにを行っている。また、本校独自の防災学習『かわせみ防災タイム』に取り組んでおり、「1.17防災未来賞 ぼうさい甲子園」では特別支援学校の部大賞をはじめ、6年連続で受賞している。コロナ禍ではオンラインを活用した取り組みを行っている。				

### 特徴的な活動

本校では『かわせみ防災タイム』という防災学習を行っている。基礎疾患のある児童生徒が多く、コロナ禍ではこれまでのようにみんなで一緒に学習することが困難になっていた。そこで防災についての動画配信を行うなど工夫してきた。今年度は外部団体の「マッシュ&ルーム」の協力を得て校内に掲示したQRコードを各自のiPadを使って読み取り、防災についてのミッションに挑戦する、という『かわせみ防災クエスト』という取り組みを実施した。

防災委員会が中心となり、ミッションの素材の写真や動画の撮影、ポスターの作成や校内へのチラシ配布、QRコード設置等の準備をした。クエストというゲーム形式は、児童生徒の興味関心を引き、意欲的に防災学習に取り組むことができた。

また、防災委員会では災害時のトイレ問題に取り組んでいる。高分子ポリマーの吸水作用を活かして感触のよいおもちゃ「センサーバック」や「脱臭剤」を作成した。これらを作成することで仕組みを理解したり、普段だけでなく災害時にも使えるおもちゃ作りに活用したりすることができた。これらは夏休みに日高市社会福祉協議会で行われたボランティア体験プログラムで地元の中学生と一緒に取り組むなど拡がりを見せている。

これまで7年間、夏休みに行われていた地域や行政、防災の専門家と一緒にしている『防災体験プログラム』は昨年度に続き、今年度もオンラインで行われた。遠隔ロボット OriHimeを使って本校や他校の児童生徒が事前に行われた防災学習センターでの防災体験の報告や当日のイベントに参加した。外部講師による災害時の食事や本校職員による災害時のトイレ体験の講座、ブレイクアウトセッションを活用して食事・医療・学校防災への疑問や質問を自由に出し合うコーナーを実施した。県内からも多くの特別支援学校のPTAや教職員も参加し、それぞれの立場で防災について考えることができた。

